

園田裕史の会マニフェスト2007～2011～2013

論理的な制度設計による政策と行動で行政を動かす。これまで6年間ブレない政治スタンスを貫き、ど真ん中直球勝負で挑んだ政策議論は、確実に実績と効果を生み出している。そして、これからも戦いは続くのである。

1.選挙に行きましょう。

「政治家や行政が悪い」と100万回文句を言っても、何も変わりません。変えられるのは選挙の時だけです。その一票でしか変わりません。その一票でしか変えることはできません。傍観する姿勢を改め、半歩踏み出す勇気をもって、投票という有権者の責任と覚悟を果たしましょう。1期目の任期中に行われた全ての選挙における投票率を上回るように“選挙に行こうキャンペーン”を継続的に展開していきます。

～経過/実績/効果/その後～

1期目の時に行われた全ての選挙で投票率はポイントを上げた。しかし、2期目以降、各選挙の投票率は再びポイントを下げたて推移している。これに対して、日頃の議会全体の活動を市民が見える、読める、聞ける環境へ整えていくを議会内で提案し実行へ向けて動いている。まずは、市民に対して、市の行政に議会に興味関心を示して頂けるように、選挙に行きたくなるような活動を、我々政治に携わる人間が先導する必要がある。

2.大村市に、大村市議会に興味・関心をもちましょう。

皆さんが納めた税金の使われ方を監視すると共にガラス張りの行政運営、議会運営を進めます。市の財政問題、教育問題、医療・介護問題、環境問題等、徹底的に行政改革に切り込みます。大村市、大村市議会のホームページを、市民が見たくなる。読みたくなる、聞きたくなるものへ全面リニューアルを図っていきます。

大村市に対する興味・関心の高まりを数値的に評価するため、大村市議会開催時における傍聴者数の増加に取り組みます。～経過/実績/効果/その後～1期目より行政改革を推し進めている。繰り返し提案と実施効果を重ねてきた「未利用地の売却と無償貸与の改善」について、これまで様々なシガラミにより指摘されることがなかった各種団体との借地契約に対して、断固たる決意でメスを入れてきた。結果、民間団体との契

約見直しにより1期目において約**5370万円**、2期目現時点において約**1億1,000万円**、これまでの議会活動で新たな財源確保として約**1億6,000万円**強を達成している。情報化推進に関しては、平成25年3月より大村市及び大村市議会ホームページが全面リニューアルされ、より見たくなる、読みたくなる、聞きたくなるものへブラッシュアップできている。今後は、CMS(コンテンツ管理システム)を充実させ、市民・行政・議会における3者間のやり取り強化を進めていきたいと考えている。

3.9万人全員で大村市を運営していきましょう。

大村市の財政状況、教育、医療、福祉、介護、自殺、環境等々の問題を市民と一緒に解決していきます。定期開催している「市民と議会のつどい～語ってみゆーか～」における参加者の増加を実現します。市民と各種団体との意見交換の場を多く設け、大村市の運営は市役所や議会だけではなく市民全体で行うという意識を基に、積極的に市民の声を届けていきます。これらの取り組みを数値的に評価するために、大村市地域福祉の向上(町内会、子供会、自主防災会等の組織及び加入率)に取り組みます。

～経過/実績/効果/その後～

平成20年12月、大村市議会基本条例を制定し、「市民と議会のつどい」の定期開催を実現する。現在も、その条例内容の検証と研究を重ね、より市民に開かれた議会運営を目指し、議会改革に取り組んでいる。地域福祉の向上に関しては、自らも町内会や子供会、自主防災会の運営に際し地域住民の一員として先頭に立ち活動を展開している。特に、加入率低下が叫ばれている町内会や子供会に関しては、新規加入を図る取り組みとして、入学説明会や入学式での加入促進策を打ち出す。自主防災会に関しては、地域の防災意識の向上を図る目的として、子供達や若年層をターゲットにした「**防災キャンプ～学校に泊まろう～**」を実施し、各種メディア報道により大きな話題となる。

4.地域で命を守りましょう。

1998年から13年連続、日本の自殺者数は年間3万人を越えています。自殺を「個人の問題」と

捉えるのではなく、「社会全体の問題」として考え、国や自治体をあげて取り組むことが急務です。まずは、自殺予防に関する積極的な啓発活動を展開するために自殺の問題を広く市民に知らせることが必要です。更に、行政機関は相談窓口の一本化を図り、全庁的な取り組みによる自殺総合対策室の設置を提案します。大村市における自殺者数の減少に取り組みます。

～経過/実績/効果/その後～

先の大村市総合計画見直しに際し、自殺対策強化の項目が盛り込まれた。これは、大村市が自殺対策を最重要課題として位置付けた証であり、確実に前へ進んでいる。予防の基礎知識や関係機関の電話番号を記したリーフレットをつくり、市役所には市民向けの相談窓口も設けた。啓発用に自殺予防キャラクター「大村市いのちをつなぐままるくん」もつくった。

更に、**県内で初めて市独自の自殺対策基本方針を策定**し、医療・司法・学校など外部の関係組織とスクラムを組み、啓発や予防、遺族支援などを進める。市職員でつくる「**庁内自殺対策協議会**」が企画する事業にアドバイザーする「**実務者会議**」と実動部隊の「**市自殺対策ネットワーク会議**」という2つの外部機関が柱となる。

5.地域で子どもを育みましょう。

大村市の保育施設充実を図るために、認定こども園・保育園・幼稚園・特別保育・学童保育施設等々を総合的な子育て支援施設と捉え、「大村市保育施設サービス整備計画」に基づき、こども行政を前へ進めていきます。更に、病児デイケアの利用拡大を図るために、利用方法の改善と設置数の増加に取り組みます。～経過/実績/効果/その後～1期目より様々な議会活動及び一般質問の場面で繰り返し“命”に関する政策提案を行っている。「守る命」としての自殺対策、「育む命」としての子育て支援、そして「生まれる命」としての不妊治療である。財源には、こども夢基金を活用することで継続的な事業実施が可能である。これに対して大村市は平成24年度より**県内初の独自助成金と学校における妊娠適齢期の指導を盛**

に拡充⇒平成24年より対象児童を小学校3年生までに拡充⇒そして平成25年度より現在1ヶ所の施設整備を北部南部にも拡充(さわ小児科、田川小児科)することを実現。今後は、更に利用基準の改善に取り組みたいと考えている。

6.地域で医療を構築しましょう。

市立大村市民病院の設置者は“大村市”です。決して、公設民営化で終わりではありません。今後も、病院経営に対する協力及び市内医療機関との連携を図るため、大村市がコーディネーターとしての役割を強化していきます。

～経過/実績/効果/その後～

公設民営化による経営改善を進め、繰り返し提唱している回復期・リハビリテーション病棟の設置を実現する。平成20年度に指定管理者制度に移行した市立大村市民病院は収支改善で平成22年度の経常収支は約**3,900万円の黒字**となった。その後は黒字収支を続けている。今後は、老朽化した施設建て替え計画も含めた基本計画により、更なる経営改善と地域密着型の運営に対して、継続的に監視と種々提案を繰り返し、地域医療の再生を進めていく。

7.大村市に生まれる子どもを大歓迎しましょう。

児童虐待が叫ばれる一方で、妊娠したくても、不妊で悩まれている夫婦は少なくありません。不妊治療に悩む夫婦に対し、大村市が治療費用を補助することを提案します。財源には、「こども夢基金」を活用し、大村市に生まれる命を大歓迎します。～経過/実績/効果/その後～1期目より様々な議会活動及び一般質問の場面で繰り返し“命”に関する政策提案を行っている。「守る命」としての自殺対策、「育む命」としての子育て支援、そして「生まれる命」としての不妊治療である。財源には、こども夢基金を活用することで継続的な事業実施が可能である。これに対して大村市は平成24年度より**県内初の独自助成金と学校における妊娠適齢期の指導を盛**

り込む「こうのとりのプロジェクト」の事業化を実現する。

このプロジェクトは3カ年。特定不妊治療に取り組む夫婦に対し、独自に助成金5万円を上乗せする。庁内に不妊治療の専門ダイヤルや相談窓口を設置。小中学校の授業で妊娠に適した年齢などに関する知識を教える計画である。

8.オオムラミライブプロジェクトを発足しましょう。

市内で活躍するスペシャリストを官民間問わず招集し、大村市の未来を創造していくプロジェクトチームを設置します。市制70周年記念イベントにおいても、市民協働による取り組みを実施し、自前のアイデアと企画力で、住み続けたい大村市を創っていきましょう。

～経過/実績/効果/その後～

各種団体の交流を積極的に行い、官民協働型のプロジェクトチームを設置すること。そこから、若年層をターゲットにした、これまでにない市民大学的な大人の学び場(東京都渋谷区にあるNPO法人シブヤ大学的な新しい視点)を構築していくことを繰り返し提案する。これを受け、**平成25年度大村市重点政策に「おおむら市民大学(まちづくり人材バンク)運営事業」と掲げられ、政策を実現する**。今後は、運営母体の確立、授業メニューの充実、ネーミングを含めた再検討の必要性、「人材バンク」としての機能強化を図り、独自のユニークな大学運営へ向けて入口部分の強化を進めていく。

9.大村市の日本一な教育を叫びましょう。

大村市内の高校や中学校では、全国的に活躍するスポーツや文化クラブが数多く存在します。彼ら彼女らの活躍を、もつともつと発信し、もつともつと支援していきましょう。こども達のスポーツや文化の発展に対するバックアップを強化していきます。～経過/実績/効果/その後～現在、大村市における小学校から高校生(いわゆるこども達)の文化・スポーツでの活躍は素晴らしいものがあり、昔では考えられないほどの大活躍である。現在、大村市が定める支援体制は、いまの大村市においては時代遅れな状況となっている。

「大村市小中学生九州・国際大会遠征費に係る助成金交付要綱」「大村市小学生・中学生スポーツ表彰 選考基準」

助成金について。平成24年度の実績値では、当初予算に210万円で計上されていたが、子ども達の活躍により追加の補正予算対応にて予定額として約380万円が見込まれている。また、表彰基準を満たす個人・団体は100件程を数える。そこで、「日本一住みたくなる街 大村市」「日本一子育てしやすい街 大村市」、これに加えて「日本一子ども達を応援する街 大村市」を提唱する。現在の基準選定を大幅に見直し、額もしくは全体予算に対する割合(%)で日本一を目指すべきである。具体的に言えば、全体予算規模として1000万円を計上し、更に出場する子ども達については全額補助をすべきと考える。大村市を背負って戦うという意識は、郷土愛を育むことにも直結する。

表彰及び情報発信について。現在、表彰基準については、「大村市体育協会表彰」が行われている。しかし、市庁舎正面に掲げられる懸垂幕には、明確な基準はない。そこで、公平性の観点から、まずこれに基準を設けること。平成24年度のペースでいけば100件弱の活躍を大々的に市庁舎より発信すべきである。これは、選手や保護者はもちろん、後輩のモチベーションアップ、学校(組織)の改革、市民に対する周知、市民に対する周知は更なるチーム(組織)の改革と活躍を生み出す。これを実現するために案内板の設置として、市庁舎前、国体告知ボードの活用、大村小学校壁面等の活用を提案している。また、高校生の活躍については、他市の高校に在籍している場合においても、大村出身という位置付けで応援を徹底すべきである。

財源について。①国体ボードを例に、ボード周囲に一般企業から協賛を募ることを提案する。スポンサーボードとして子ども達を応援するということは企業イメージアップにもつながる。②子ども達の夢を実現するために使用するという観点から「こども夢基金」の活用を提案する。

10.議員定数を22名に削減しましょう。

大村市民11720名の声は、議員定数を22名に削減してほしいというものです。市民からコンセンサスを得た少数精鋭のプロ集団により、市民との信頼関係に裏打ちされた議会運営が可能となります。質の高い議論と、議員提案による政策及び条例提案を行い、タイムリーに市民へ発信していきます。更なる議会改革を実現するために、継続して議員定数削減に取り組みます。

～経過/実績/効果/その後～

市政一般質問及び議会活性化特別委員会において、**議員定数の削減**に対する提案と協議を繰り返し行うが、反対意見多く実現できていない。

まず、議員側より条例改正(案)を提出するには、議員定数の1/12以上の議員の賛同が必要である。つまり、大村市議会においては、3名以上の議員により提出することができる。

そこで、条例改正(案)の提出に賛同する同志を募る。**定数削減**を求める背景と根拠はもちろん、その目的と効果を明確にして、正々堂々と「**議員定数削減**」に対する条例改正(案)」を提出したいと考える。

議員の定数が多くなれば、一部の地域や団体から議員を誕生させることが可能となり、そのような中から選ばれた議員は、大村市全体を面と捉えることはなく、既得権益や利益誘導による事業の判断、政策の提案を繰り返し、大村市全体の福祉向上にはつながらない。**議員の定数を削減**し、競争率を高めることにより、大村市全体を考えた優先順位と合理的で公平な判断と提案ができる議員は誕生する。それにより、質の高い議論と論理的な政策判断及び提案は生み出されると考える。

それこそが、大村市民を幸福へと導き、大村市政を前へ進め、大村市議会を活性化させる。それこそが、大村市というフィールドで仕事をする市議会議員である。それこそが、市民に近い、政策に強い、実行が早い市議会(組織)となる。

つづきはwebへ。

語る

主なポイントとして、大村駅前⇒マックスバリュ諏訪店前⇒桜馬場交差点 au ショップ前⇒大川田交差点親和銀行前をローテーションで回っています。政策と想いをお届けします。

配る

自らの足で歩いて議会報告書を配り続けています。一部の地域や一部の団体だけではなく市内全体を回っています。政策をちゃんと伝えれば、一緒に考え行動してくれる人がいると信じています。

綴る

綴る

議会活動や政策の詳細をホームページやブログに書き続けています。facebookもはじめました。政治をオモシロク発信していきます。バックナンバーをご希望の方はご連絡ください。

出張る

大村市について、大村市議会について、実際の園田裕史について、教えてほしい、聞いてみたい、訴えたい、そういう方は園田裕史をお呼びつけください。市内どこへでも伺います。

大村市議会一人会派 園田裕史の会

園田裕史:大村市議会議員／1977年(昭和52年)大村市生まれ／36歳／〒856-0827 長崎県大村市水主町2丁目1025-4／tel&fax 0957-42-4591／mobile 090-7928-3979／e-mail info@sonoda-hiroshi.jp／HP http://www.sonoda-hiroshi.jp／